

平成29年中 事業用トラックが第1当事者となった死亡事故

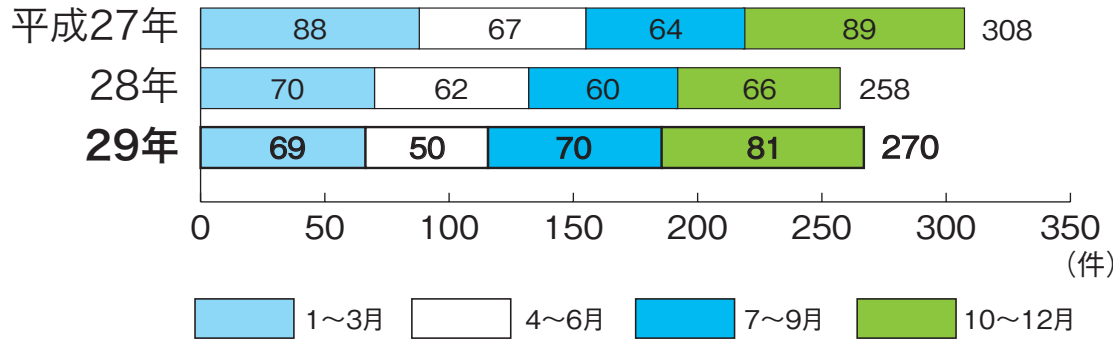
全ト協 交通事故統計分析結果〔発生地別〕

概要

対象は事業用貨物自動車(軽を除く)が第1当事者となった死亡事故。また、「車両相互」での第2当事者となる「車両」には道路交通法上の「軽車両」である「自転車等」を含む。

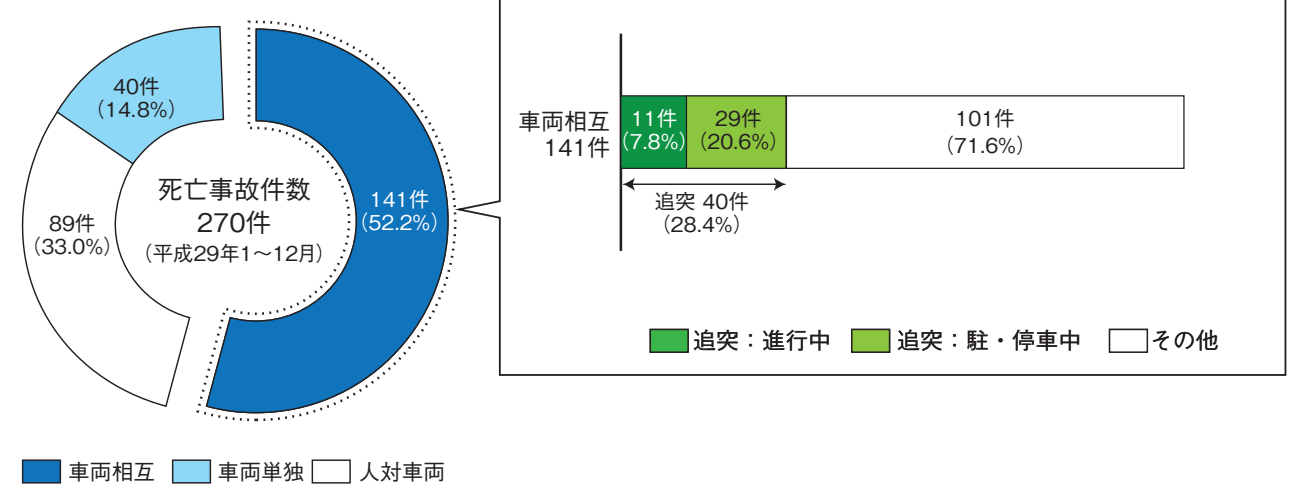
● 事故件数

- 平成29年1～12月の死亡事故件数は、270件と5年ぶりの増加となった。
- 営業用トラック1,265,079台(平成29年3月現在、トレーラ及び軽自動車を除く)に対する1万台当たり死亡事故件数は「2.1件」となり、平成29年9月に新たに策定した「トラック事業における総合安全プラン2020」の目標である「1.5件」を達成するために、更なる事故防止対策が急務である。



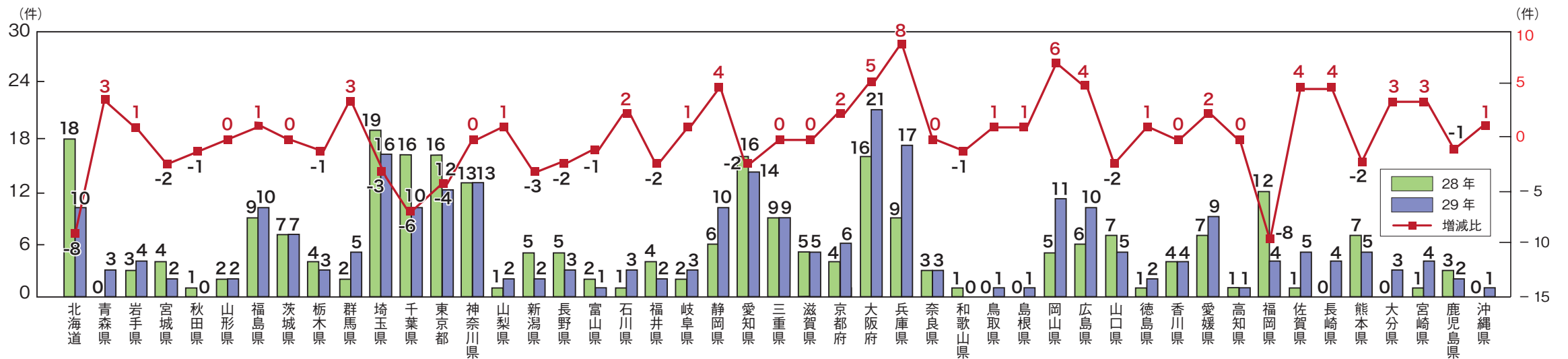
● 事故類型別

- 平成29年1～12月の傾向をみると、「車両相互」が最も多く141件(52.2%)と半数以上を占めている。
- 次いで、「人对車両」89件(33.0%)、「車両単独」40件(14.8%)と続いている。



● 発生地別

- 平成29年1～12月の発生地別死亡事故件数は「大阪府」が最も多く21件、次いで「兵庫県」17件、「埼玉県」16件、「愛知県」14件、「神奈川県」13件。
- 対前年比では「兵庫県」が+8件と、著しく増加している。次いで、「岡山県」+6件、「大阪府」+5件、「静岡県」、「広島県」、「佐賀県」、「長崎県」がそれぞれ+4件となっている。

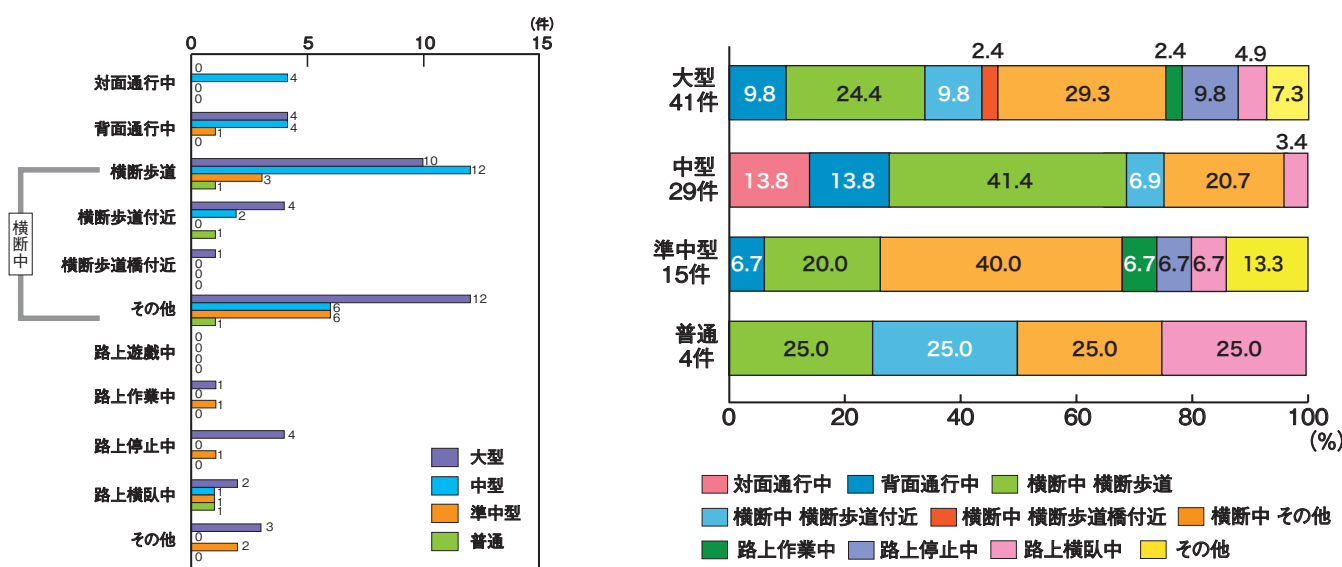


● 事故類型別(車両区分)

(1) 車両区分別の事故類型(人对車両)別

※「人对車両」には、対自転車事故は含まない

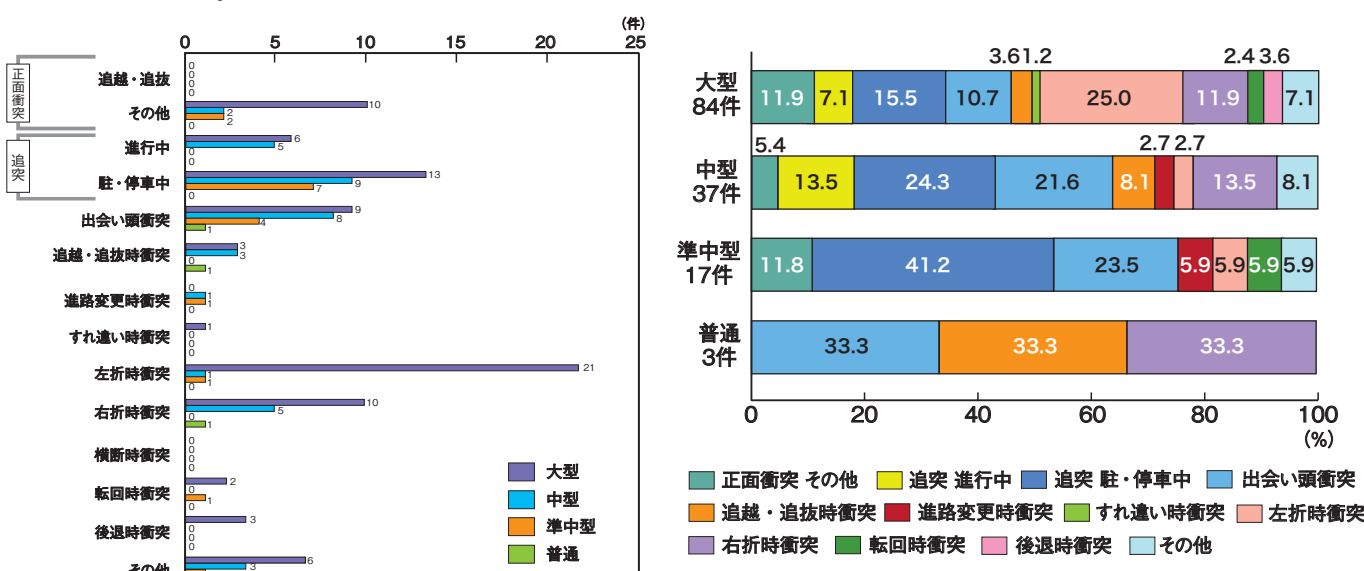
- 車両区分別の事故類型(人对車両)別みると、「大型」は「横断中 その他」が最も多く12件(29.3%)となっている。
- 「中型」は「横断中 横断歩道」が最も多く12件(41.4%)となっている。
- 「準中型」は「横断中 その他」が6件(40.0%)となっている。



(2) 車両区分別の事故類型(車両相互)別

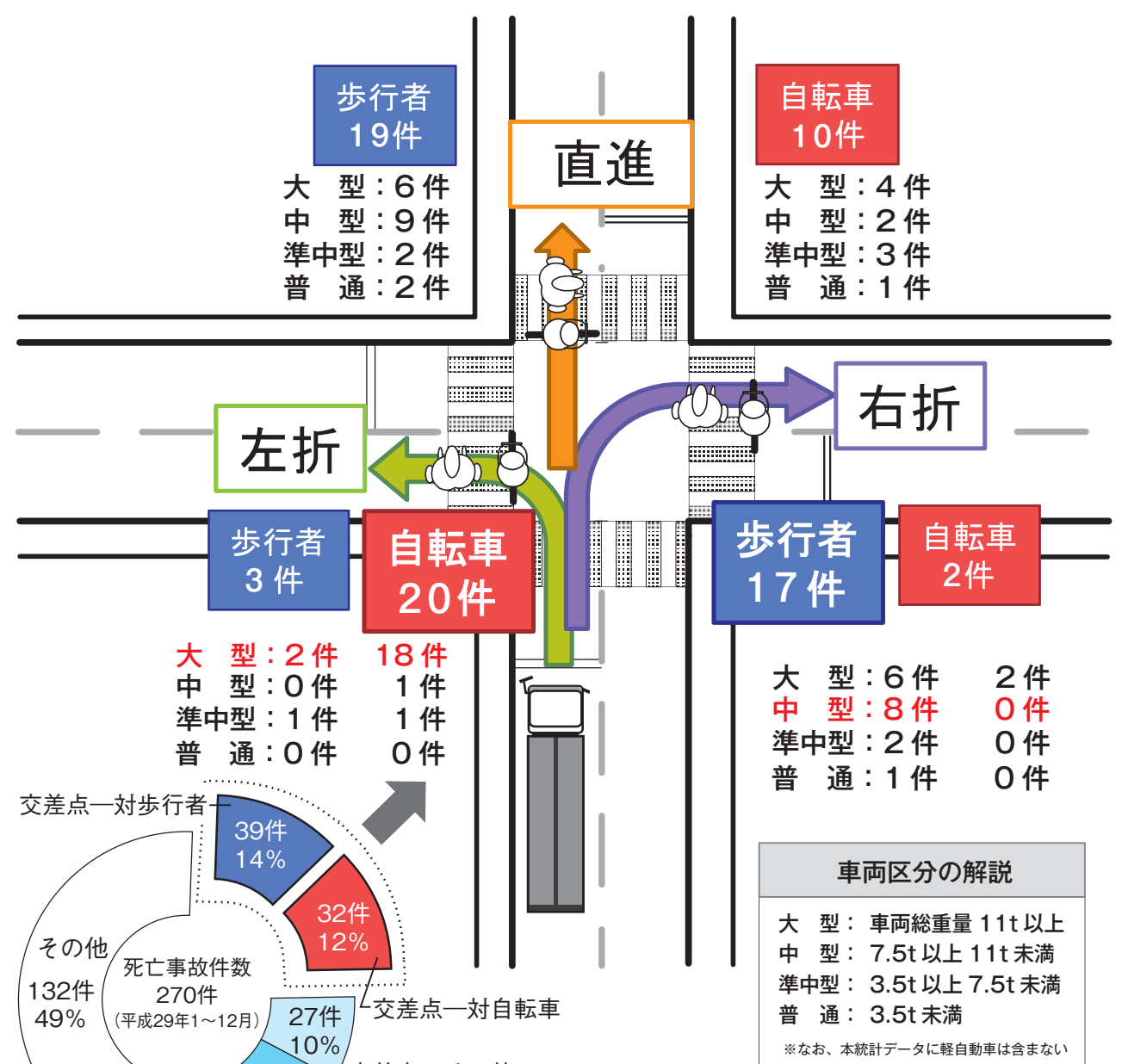
※「車両相互」には、対自転車事故を含む

- 車両区分別の事故類型(車両相互)別みると、「大型」は「左折時衝突」が最も多く21件(25.0%)となっている。
- 「中型」、「準中型」では「追突 駐・停車中」が最も多く、それぞれ9件(24.3%)、7件(41.2%)となっている。



● 交差点における死亡事故(対歩行者・対自転車別)

- 事業用トラックが第1当事者となる交差点における対歩行者、対自転車の死亡事故(71件)は、追突事故(40件)の1.8倍。
- 左折死亡事故は、9割近くが大型車であり、対自転車(20件)が対歩行者(3件)の約7倍。
- 右折死亡事故は、9割近くが対歩行者(17件)であり、対歩行者の約5割が中型車。



車両区分の解説

- 大型: 車両総重量 11t 以上
- 中型: 7.5t 以上 11t 未満
- 準中型: 3.5t 以上 7.5t 未満
- 普通: 3.5t 未満

※なお、本統計データに軽自動車は含まない